

ご来院にはバスが便利です

- JR千葉駅から
東口正面7番のバス乗り場から
「千葉大学病院」または、
「南矢作」行きバスに乘車、
「千葉大学病院」で下車。
(約10分毎、所要時間約15分)
- JR蘇我駅から
東口2番のバス乗り場から
「大学病院」行きバスに乘車、
終点「大学病院」で下車。
(約20～30分毎、所要時間約15分)
- 京成電鉄千葉中央駅
タクシー(所要時間約10分)

お車でのご来院

- 京葉道路から
松ヶ丘インターから所要時間
約10分

外来駐車場は
大変混み合いますので、
ご来院の際は公共交通機関を
ご利用願います。

お問合せ先

千葉大学医学部附属病院 次世代医療構想センター

〒260-8677 千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1
[大代表]043-222-7171
[直通]043-226-2762

▼詳細はこちら
次世代医療構想センターWEBサイト
[URL] <https://www.ho.chiba-u.ac.jp/NextGeneration/>



病院寄附金制度を活用した当センターへのご寄付のご案内

あなたの想いを次世代の医療に役立てます

今、目の前にいる患者さんに全力で行う「臨床」。5年、10年先に繋がる医療を生み出す「研究」。そして生み出された新しい技術を駆使できる医療人を育てる「教育」。これらは、当院がこの先もずっと果たしていくべき大事な使命です。

千葉大学医学部病院では、この使命を果たし続けていくために皆さまから、広く寄附金を受入れる制度を設けております。

皆さまのご期待に沿えるように職員一同、より一層の努力をしておりますので、ご支援・ご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

寄附金には税法上の優遇措置などがあります。寄附方法の詳細などについては、千葉大学医学部附属病院「病院寄附金制度のご案内」をご覧ください。

▼病院寄附金制度のご案内サイト
[URL] <https://www.ho.chiba-u.ac.jp/approach/kifu.html>

※当センターへご寄附いただける場合には、寄附目的の欄に「次世代医療構想センター」を明記してください。



千葉の問題は、
日本の問題、私の問題。



次世代医療構想センター

Center for Next Generation of
Community Health

のご案内



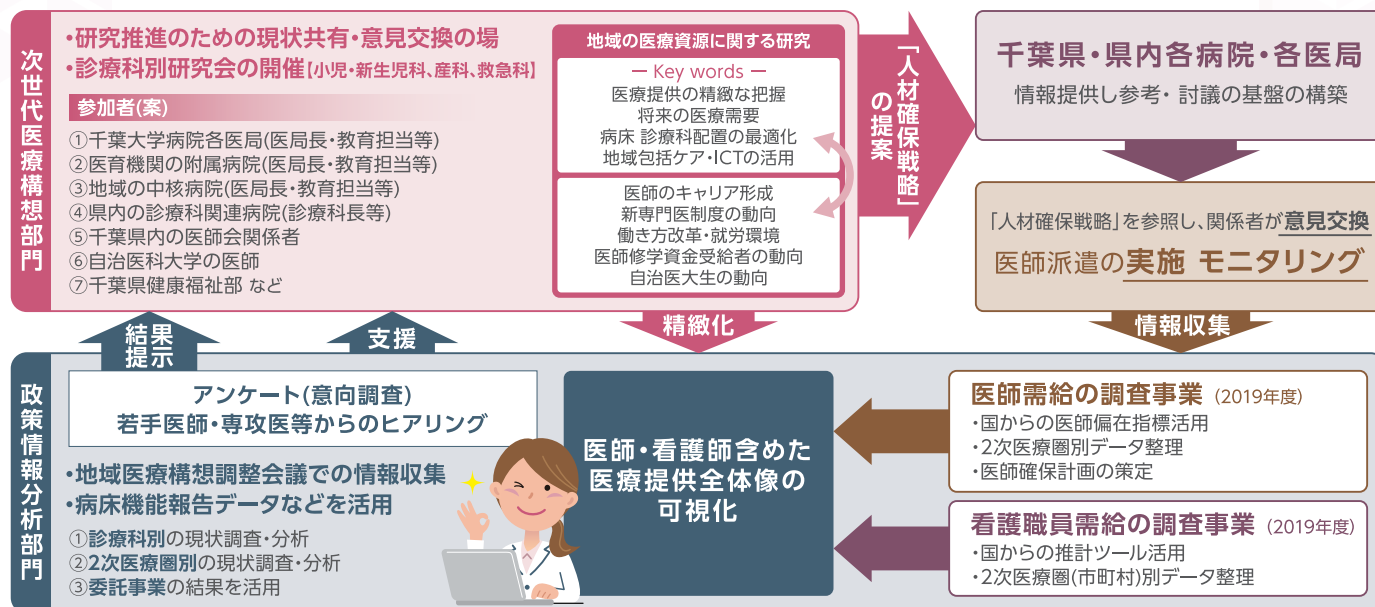
次世代医療構想センターとは

Center for Next Generation of Community Health

次世代医療構想センターでは、2025年以降の地域医療ニーズを見据え、**大学病院 地域の医療機関 千葉県** の3者が中心となって、以下の研究活動を行い、安定した地域の医療提供体制の確立を目指します。

- 1 持続可能で質の高い医療の実現に向けた方策の検討
- 2 県に定着する医療従事者を増やす方策の検討
- 3 医療機関の役割分担と人材配置について大学医局等と協議

次世代医療構想センター 研究計画の全体像



次世代医療構想センターは、**次世代医療構想部門**と**政策情報分析部門**で構成されます。

次世代医療構想部門では、県内の医療に関連する組織や団体に対し現状の情報共有・意見交換の場の提供、政策医療分野である小児科・産科・救急科を中心とした診療科別研究会の開催、地域の医療資源に関する研究を行います。

政策情報分析部門では、主に県内医療機関のレセプトデータ、DPCデータ、病床機能報告データに加え、診療現場からのヒアリングによる生の声を活用した情報収集を行い、診療科別、2次医療圏別の精緻な現状調査・分析を行います。

現在の問題

昨今の急激な人口構成の変化をうけ、厚生労働省は2025年と2040年を重要な区切りとして制度設計を急いでいます。2025年はいわゆる「団塊の世代」が後期高齢者となる年であり、さらに2040年は「団塊ジュニア」が65歳以上となる年となります。これらを一つのめどとして「**地域医療構想の実現**」、「**医師偏在対策の推進**」、「**医師の働き方改革の推進**」を「三位一体改革」と位置付けて、行政は医療提供体制の改革を精力的に進めています。また、2018年の医師法・医療法の改正により、医療政策に関する権限の一部は国から都道府県に委譲されており、医療提供体制の改革において、今後は都道府県の役割が重要性を増すこととなります。千葉県で起きている医師の地域偏在・診療科偏在などの問題は、日本各地に共通する問題でもあり、医療従事者一人ひとりの働き方・生き方の問題、そしてその地域に住んでいる人々の問題でもあります。

地域医療構想

2025年に向けて、少子高齢化の進展が見込まれる中、限られた医療・介護資源を効果的・効率的に活用し、県民が地域において安心して質の高い医療・介護サービスが受けられるよう、医療機関の病床機能の分化と連携を推進することを目的としたものです。

メンバー



吉村 健佑 センター長 / 特任教授

千葉県で起きている医師の地域偏在・診療科偏在などの問題は、日本全体の問題であり、医療従事者一人ひとりの働き方・生き方の問題、そしてその地域に住んでいる人々の問題でもあります。これらを根本的に解決するために今回、大学病院、地域の医療機関、千葉県の3者が中心となって研究活動を行い、安定した地域の医療提供体制の確立を目指してまいりますので、ご支援・ご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。



成瀬 浩史
特任助教

千葉県が抱えている医療の問題は、行政機関単体での解決には限界があり、医療を提供する側だけでなく、医療の恩恵を受取る側も協力して、解決に向けて取り組まなければなりません。私たちは、大学病院、医師会、医療機関、千葉県、地域に住む人々などのステークホルダーの間に立ち、地域に安心・安全な医療を次世代に残す仕組みづくりに貢献すべく、邁進してまいります。



岡田 玲緒奈
特任助教

千葉県は東京の隣県であり人口が多いことに加え、大きな半島であるという地理的な特異性等々により、医療の地域偏在の問題が大きいと感じていました。質の高い医療を長期的に継続して患者さんに提供するために医療者の働き方を見直す時代がついに始まろうとしています。未来の千葉県の医療、ひいては日本の医療全体に有用な提言をできるよう、小児科医ならではの視点で貢献したいと思っています。



高橋 希
特任助教

救急医療は、すべての医療の入り口となり、根幹となる領域です。通常の外来と違い、24時間365日、どの地域においても等しく質の高い医療の提供が求められますが、現段階で十分に達成している地域は日本にはありません。千葉県がまずそのモデルとなるよう、地域と連携し次世代の救急医療を実現する手助けができればと思います。



埴 真輔
特任助教

産婦人科という領域は周産期を通じて未来につながる医療であり、婦人科を通じて女性の一生を支えていく医療です。いずれも社会を支える大事な医療です。世界でトップレベルといわれる日本の産婦人科医療を次の世代継承するためにお力になれるよう頑張ります。

今後の取り組み

数ある診療領域の中から、まずは「政策医療分野」として位置づけられる、小児科/新生児科・産科・救急科を優先し、**4つの事項**に取り組みます。

- ①各地域のニーズ、病院の機能、医師のキャリア形成の傾向を明確化するための精緻なデータの収集と分析および可視化する
- ②保健医療計画と大学医局による医師派遣の整合を目指した意見交換の場を通じ、問題点を抽出する
- ③働き方改革や情報通信技術(ICT)の進展を見据え、医療提供の効率化と新たな提供の在り方を検討する
- ④今後の医療提供について、医療を受ける側である地域住民に周知する方策と合意形成モデルを検討する

研究成果は、次世代の医療を支える「人材確保戦略」などの形に集約し、当センターで開設予定のホームページなどで積極的に発信してまいります。